和字正濫抄　二

ホ 2
103
2

利2 門 號

和字正濫鈔巻二

い　以伊異已音五十訓等用之

膽い（膽駒膽吹熊膽等准之）

寢い（朝寢等）

射い（射手射塲等これにならへし。日本紀よいくふとてよめり）

色いろ（何さ色附 彩いろいろ）

母いろは・（そくの 古作）いろそとのいろはの略まて日母弟のことなり

弟いろと（日本紀いろおとのおを略せるなり。）

兄いろね（日本紀いろ泥とよ いふもしはいせと）

利 號 103 巻 2

同韻なれハいろせまて同母兄と書兄。そのこゝろしてあまね見せしとなり

喘息　いろけ（日本紀）いきけとし

岩　いは

あらはよられとゝんゆうを穂に出といへり。足の甲に同を蹈ちすやうなるをいはほといへり。稲穂等の穂并の帆火（ホノホ）穂垣穂等皆同きなり

石綱　いはつな（万葉続云）るりつる

鱗　いろくつ（いろこともうろくつともうろことも）

雲脂　いろこ（和名頭垢也。鱗と同し義なるへし）

巖　いはほ（万葉に石穂とかけることあり。穂ハ）

羊躑躅　いはつゝし（和名もち　つゝしとも）

磐梨　いはなす（和名備前　国郡名）

石韋　いはのかは（いはくみ　ともわ名）

石斛　いはくすり（すくなひこの　いひねともわ名）

窟　いはや

沉　いはむや（別　同）

○（古名　未考）いはむけるし

鎮齋　いはふ（社をいはふなり）

巻柏　いはくみ（わ名）いはこけとし

屯　いはむ（日本紀満　溢並同）

驚駭　いはけ（日本　紀）

祝　いはふ

磐余　いはあれ（いはれとも大　和国十市郡にあり）

嘶　いはゆ（和名集いなゝくとし。いえとはくゝる／に弱いはふおちゝとこよまんハひがごとなり）

所謂　いはゆる

古　いにしへ（一万葉に方の字を／へとよ）めり。いにしか

たの意なり

廬　いほり（いかとしいふ。／農と旅との）

いほりあり。万葉にみへよいほりてとよることゝ号舟集に

いほりてをよんとよみるれハ。術男によりてこそなり

菴　いほり　いほとし

周亜夫か軍するなり。然るに新続古今集序にあつさゆみやるき

のいとなきとどもありさらやとうけるハ柳の糸よくより

營　いほり（軍営和名將軍／を柳営といふハ）

されと綴字の字ありは

うひたるハ俱なり

すれハよくもしまろふといへ

だにさて名付るた

名。真名假名

共に用ゆべし

蟷螂　いほむしり（和名肬（イヒ）／目（ボ）をとくハ）

魚緒　いほすゑ（和名備中／小田郡郷）

家　いへ（一万葉和名等。いゑ／とかくへからす）

兎葵　いへにれ（和／名）

鴿　いへばと（和／名）

雞　いへどり

はとゝ同し。いへどゝハすでにさハいへどりのこゑ。

はふとし。ふたとひ何といふともとほをさていふ。

共に綴奪等の云なり。梓弓ひけどひかねどいふるりのどく雞なり。

思ふこしふこしあかむ物なれやといふるりのとも陸なりぱだのめ

ずハ人をまけちの心なるとかやうのこと陋なり人ハいへども
人のいふこともかやうなるハ雖言（イヘドモイフト）にて一字にあらずんを著へし

芋　いへついも（和名いへついもといふ萬葉にハうもとよめり）

絲　いと

甚　いと（痛左亦同）

怡土　いと（和名筑前國郡名）

彌（萬葉）　いとど

哀不忍聽　いとをしがる（日本紀に鳥取連萬（ムラジヨロヅ）が犬の萬が討死しける尸をまもりけるよし）
帝きこしめしてあはれませ給へ
ることを記されたる所にかくあり

營　いとなむ

挑　いどむ　　暇　いとま

肰　いとふ　　従父兄弟　いとこ（附再従兄弟　いやいとこ）

○（書名未考）いとこ（日本紀の哥にうまひとハうまひとどちやいとこハもいとこどちとよめり上のいとこに准して見れハ同輩をいふとみえたり）

幼　いときなし　　市　いち

嚴忌　いちはやし（日本紀 捷（イチハヤシ）毛詩）　　肆　いちぐら（市倉なり　和名）

覆盆子　いちご（日本紀にハ蓬蔂いちびこ古語にかやうのいの字の覆盆と蓬蔂とハ一物の異称なり）

灼然いちしろく　しく（いちしろ）

櫟いちひ（日本紀古事記万葉集和名集 等並同いちゐとかくへからす）

市郭兒いちびと（和名）

臇いりもの（和名）

犬いぬ（狗同和名集 ゑぬとも）

市師花（仮字）いちしのはな（万葉）

熬海鼠いりこ（和名）

往いぬ（いなんか なと同し）

葒草いぬたで（和名犬何 凡そ何と）いふ物の名ハ似てそれならぬを云なり

入いる

鑄いる

江豚いるか（和名）

魚いを（和名俗説ありうをとも 鱗あり尾あれハ鱗尾也）

漁子いをとり（和名）

商陸いをすき（和名）

栗刺いが（和名）

熬いる

忽緒いるかせ

鰯いわし（和名）

伊賀いが（伊勢伊豆伊 豫等准此）

五十日いか（生れて五十日に當 りていはふといふ）

烏賊 いか（附烏賊墨 いかのすみ）

碇（万葉重石） いかり（和名）

かくろさか

せかなわ

筏（俗誤作筏） いかだ

嗥・いがむ（犬未考）

嚴 いかし（日本紀重同。めしく訓字也）

如何 いかに いく同し

何鹿 いかるが（和名丹波国郡名斑鳩也）

鎔 いかた（鋳形の義なり）

雷 いかづち（瞋（イカ）槌（ツチ）の義歟。又ハなるかみ）

瑞籬 いかき（万葉并和名又みづがき）

貽貝 いかひ（貽カ音怡なれと音をもて和名云）

彌 いよ いよ〱同し

扳・いた

虎杖 いたどり（和名本草綱目には斑にて虎の文に似又杖に似たり。これはかく名付たるよしなり。杭まきには虎の）杖にすして。杖つでしゆくべきかほつさをとゞり。聖なに名実に違もろ例に虵麻虎杖なるをとへるも同じきなり。和名に本草疏を引て虎杖一名武杖といへるに合はれかゝれは虎か杖のこゝろなり

蔓椒 いたちはじかみ（和名）

矗 いよやか

勞 いたはる

鼬 いたち（和名）

連翹 いたちはぜ（和名又ハいたちくさ）

至　いたる　（附致　いたす）　頂　いたゞき　（附戴　いたゞく）

巓（山）　いたゞき　徒（万葉　并用）　いたつ

平題箭　いたつき（和名）　痛　いたむ

抱　いだく　うだくとも又むだくとも日本紀にあり。拱をたむだくとよむハ手抱（タムダク）なり。万葉にあり。たむだきすとハいふべし。たむだくするといふへからず。又此字日本紀にハてをつかねとよめり。こまねくとよむハ常のことなり

文蛤　いたやがひ　（其文板屋に似て　れハ板屋貝なり）

流矢　いたやぐし（日本紀）　伊太祁曽　いだきそ（紀伊）

国名草郡に素戔嗚尊の御子五十猛（イソタケルノミコト）命のましますやしろの名なり。此付て案ずるに伊太祁曽ハ五十猛の假名なるにや。然らハ五十をハいとのミよむべし。曽ハ魯の字を書あやまてるなり。魯の呉音るなり。日本紀にあさしな波魯波魯とかけり。祁ハ万葉にけとのミ用て、きと用たることなし。たゞ濁音なるハ陀の字なるを用へし。續日本紀文徳実録三代實録延喜式和名集等一同に伊太祁曽とかけれ。今にいだきそといふハ二大吹處一万太吹聲といふ風情にて其のひとけの誤を傳へたるなるへし

木蓮子　いたび（日本紀　和名）　黥　いれずみ　入墨なり。日本紀にハめさく

至　いたる　附致　いたす　頂　いたゞき　附戴　いたゞく

巓（山）　いたゞき　徒（万葉　无用）　いたづら

平題箭　いたつき（和名）　痛　いたむ

抱　いだく　うだくとも又むだくとも日本紀にあり。拱をたむだくとよむハ手抱(タムダク)なり。万葉にあり。たむだきすとハいふべし。たむだくするとハいふへからず。又此字日本紀にハてをつかぬるとよめり。こまぬくとよむハ常のことなり

文蛉　いたやかひ（是文板屋に似たれハ板屋貝なり）

流矢　いたやくし（日本紀）

伊太祁曽　いだきそ（紀伊）国名草郡に素戔嗚尊の御子五十猛(イソタケルノミコト)命のまします社の名なり。是に付て案ずるに伊太祁曽ハ五十猛の仮名なるにや。然らハ五十をハいそのミよむべし。曽ハ魯の字を書あやまてるか。魯の呉音ろなれハ。日本紀にも波魯波魯とかけり。祁ハ万葉にけとのミ用て。きとハ用たることなし。たゞし濁音なるハ陀の字なるをも用へし。続日本紀文徳実録三代實録延喜式和名集等一同に伊太祁曾とかけれハ今しばらく其といふ事ハ大吹虚一万太吹聲といふ風情にて其のひとつの謬を傳へつるなるへし

本蓮子　いたび（日本紀　和名）　黥　いれずみ（入墨なり。日本紀にハめさく）

礒　いそ

急　いそく

勤　いそし　日本紀つとむといふに同し

威稜　いつ　日本紀

嚴瓮　いつへ　日本紀

弋　いくる　和名射釣欲

閙　いそのはし

争　いそふ　日本紀

出　いつ

何時　いつ

者度　いつと　和名備後国調郡郷名

誰　いつれ　日本紀

何處　いつく　万葉いつこ同し

泉　いつみ　出水の義なり

舂米　いなつきこまろ　和名

因幡　いなば

稪津　いなげ　和名播磨国佐用郡郷名。万葉にはえなげとあり。武蔵国男衾郡に同名あるは和名にもえなげとあれば、とえゑま通す

齋　いつく　斎宮こそいつきのみや准此

稲　いね　しねといへと同韻なり

否　いな　いなや同し

稲荷　いなり　是はいなになりを同韻にてかく通せり

電　いなつま　いなひかり又いなつるひとし

稲舂蟹　いなつきかに

囷　いなくら（和名稲倉なり）

引佐　いなさ（和名遠江郡名）

日ゝかきて　いなひとし

應答　いらへ

郎子　いらつこ（日本紀附郎女）いらつめ

辭　いなむ

蚱蜢　いなこまろ（和名）

印南野　いなミの（又日本紀并万葉ニ稲）

苛　いら（和名）

甍　いらか（和名）

○（真名未考）いらなし（日本紀）

羊桃　いらくさ（和名）

忌　いむ

戒　いむこと（日本紀）

祈　いのる

幾　いく（いくけいくらいく はく筆皆同）

射操　いくハところ（あむけつち とい和名）

償　いらし（日本紀貸同。償すなり）

印　いん（伊ヨ切なり。ゐんと云へるす）

命　いのち（息力 義訣）

生　いく

育波　いくは（和名摂津国有馬郡郷名）

歆脣　いくち　和名

活田　いくた

生國魂　いくたま

勇禮　いくれ　和名越後国蒲原郡郷名

憤　いくむ　日本紀

軍　いくさ

艨艟　いくさのふね　和名

弥　いや

灼然　いやちこ　日本紀

賤　いやし

今　いま

未　いまだ　まだといふも此上略にておなし。

もろこしの文には八十にあまりていまだしと見るおきなにあまりては こゝろにまかせてはいまの事何せずして二夜にもやそぢのこと見ぬかな。万葉ふみゆきのことわりいまもをそろし源氏物がたりに山の桜は まださかぬまでもいまだくれかゝることしはなきとみえ

新漢　いまき　大和国高市郡地名　日本紀に今来とも

乃　いまし　すなはちのこゝろ

汝　いまし　なんぢに同し。侫る樂にましませ

坐　います

池　いけ

牲　いけにへ　生贄（イケニヘ）かり

虜　いけどり

籞 いけす（生簀也。又生栖の義也）
云 いふ
安忍 いぶり（日本紀につよくこらへてなさけなくあしきわざをもおこなふ侶よりいふさてろハかなはす）
訝 いぶかる
蕃悒 いぶせし（万葉いふせしとし）
揖宿 いふすき（和名薩摩國郡名以支須岐とあれハふの字まぎれとのんなるへし。揖の字よれもすとていふへきことを彼國の人のよこなまれるなるへし）
憩 いこふ
中矢 いえて（日本紀射ゆのこと也）
歷乞 いで（日本紀に出。万葉にハ乞の一字又欲得とかけりおを强てそふるなり）
咄哉 いでや（日本紀發語詞なり。上と別なり）
不知 いさ
去来 いざ（日本紀等）
漁 いさり
豪傑 いさをし（日本紀 附功勲訓同）
諍 いさかふ
徘徊 いざよふ
血泣 いさちる（日本紀）
潦水 いさらみづ（日本紀）
諫 いさむ
制 いさむ（日本紀に出。万葉にハ禁）

勇　いさむ　（鄉名なり。錄の二名いさなといふ）

輕兵　いさきつはもの　（日本紀）

潔　いさぎよし

息　いき　（おきともおきそともいふ）

（日本紀放生禁地）

鯨伏　いさふし　（壱岐国壱岐郡にあり）

小　いさゝ　（日本紀聊同）

○　（真名未考）いさゝめ　（万葉古今）

長　いさせゝり　（日本紀。今となすなり）

長生地　いきながどころ

勢　いきほひ

憒　いきどほり

景天　いきくさ　（和名）

海髪　いぎす　（和名）

夢　いめ　（日本紀万葉。寝目（イメ）兄。目（メ）と見（ミ）と五音通す。いとゆと通すれハゆめともいふなれ）

射目人　いめひと　（万葉射目とかきいつり。獵場の射手なり）

諱　いみな　（憚忌てやねハ忌名の義なり。日本紀にハたゞのこゝろゝ避をり。私にハなのるといふべし）

煩熱　いきれ

氣調　いきざし　（遊仙窟）

窮鬼　いきすだま　（遊仙窟）

倚子 いし　石 いし

矼 いばし（石橋也和名）　石走 いはし（万葉此六渡瀬に石をとゞめ）

（るあり）　旝 いしはしき（和名）

石浪 いしなゝ（万葉石もに用し流八並（ナミ）に假まうる字也）

鮔 いしふし（魚の名。石伏の義なり）　鯼 いしもち（石持の義に名付）

擨 いひ（只ひとしよめり）　飯 いひ

鵄鵤 いひ（ひの字濁りて和名の假名伊微）　揖保 いひぼ（和名播磨國郡名三代実録并）

延喜式に粒の一字をかけれされはひつよの〻くほ

の字濁りを〻るに旅の廬にあるしてよめるもあり

休留 いひとよ（茅鴟同。飯豊ハ假字なり）　杏葉 いびら（馬具也。和名の假名伊毗良。俗）

（云行（ギヤウ）衣（エ）布（フ）。）　入農 いひの（和名安藝國賀茂郡ノ名）

鼾 いびき（息引気。和名鵄鵤の下に其鳴極喧とあれバ鵤（イき）息の義気）

邑代 いひしろ（和名遠江佐（サ）也（ヤ）郡郷名）　箄 いひしる〻（和名に巴聲字苑云箄（ハ）蔽（ヘ））

甑底ヲ竹筐也これより上簞の字の下に云考聲切韻云江南人謂筐ノ底方ニ上圓ナル者ヲ爲ス籮ト音羅和名之太美かゝれハ飯籮の義なり

妹　いし　いもうと同し古作に妻をもいもといへり

五十瀬　いせ　後撰にいせわたる川とよめる是なり

○　地名未考　いすろふ　延喜式

五十鈴川　いすゝかは

中下のい

蓁原　はいはら　和名に国郡名なり万葉に榛をはきとよめるははりの木なり是より古人皆誤て杖萩と思へり。日本紀には蓁の字を用天武紀に蓁揩といへる哥なり今蓁原ははりはらとかくへきを同韻にてかよはしてかくいへり

隼人　はいと　はやひとゝもいへりそれをやひをつゝむれハいとなるをなほかくいふなり又はやとよめるを早馬をはいまといふ如くはやといふを通すなり

林田　はいた　上同

羽床　はいか　和名讃岐国阿野郡郷名

鷂　はいたか　はしたかともいふは同韻通なれは

驛　はいま　日本紀万葉又万葉にはゆまといへりし亦早馬の義なれもいへり是に早馬を通す

拝志　はいし　和名山城国紀伊郡の名かやうにかれて他国にはやしとよめるハ林なるを通してそいへるも林なり

掃墨　はいすみ　和名はきすみを同韻にて通す

匍匐入 はひいり（俗にはえいり もちとよう）

西對 にしのたい

劇草（和名）かいつくさ（於きさかきつ いと同韻）

蕒草 かいな（和名かり すまと）

視私屛 かいまみ（日本紀垣あるえのつくるなり。 大和物語にかいまみバとし）

擾器（未考）かいけ

仁多 にいた（和名出雲 國郡名）

無本意 ほいなし

擾練 かいねり（かさゝ りなり）

撫 かいなづる（日本紀かき なつるなり）

擾餅 かいもちひ（かきもちをかいと いふ擾とハねら）

か

り

更衣 かうい（衣冠又女官 の次をいふ）

髪擾るなりかうハきる役かいさを己といふ又ころを
同韻にて通ひするなり遙垣をすゐといふごとし

當麻 たいま（たきまとも 共日本紀）

大輔 たいふ

擣衣 たうい

堅魚煎汁 かつをいろり（和 名）

擽鬢䯷 かうさい（和名にハかしら さしあり。）

大夫 たいふ

柁師 たいし（和名柁徒可久己 しを俗にかくいう）

玉名 たまいな（和名肥後國 郡名日本紀）

に玉杵（キ）名とあり。杵を省き
これと称いふかなりしてそくり

啄　ついばむ　和名

築墻　ついかき　和名ついひぢとて俗に築地とかくハ誤なり。ついがきハ
つきがきついひぢハつきひぢなり。又木竹にてゆふを
のとかきといふとおもへるハわろしとなり

朔　ついたち　月（ツキ）立（タチ）なり晦ハ、
月（ツ）隠（ゴモリ）のことなり

衝立　ついたて　つきたてを同
韻よく通す

續松　ついまつ　俗にたいまつといふハつとた
を通じて云ふ。
別に焼松の義也

費　ついえ　未考。費をつえとよ
むに同じくていえ
音便
也

次　ついで

腧　ついひぢりゐ　和名

蹄蹁　つまいり　馬病

柱礎　つみいし　（いきて　ゑとし）　和名
うつそ
抽沈

鳴鳥合　ないとりあはせ

當胷　むなかい　和名にハむなかきとあるを俗にかくいへるハ同韻
の故なり。又むなかきハ胸（ムナ）繫（カケ）の義なるべし

蔑　ないがしろ

肉刺　のいすみ　和名

老　おい　日本紀に人の名に老と
いふを例して老此云於（オ）喩（ユ）
とあり。又俗にもおゆるとよめりおふと
いふへし。やいゆえよの通ひなり

緌　をいかけ（和名老懸（オイカケ）又ほてすけ／かうふりのをといふ）

置賜　おいたま（和名出羽／国郡名）

奥石杜　おいそのもり（近江／国蒲生郡）

於　をいて（をきてなり。法相／宗にはうへにとよ）めり。をも上に重てのかなり。続日本紀万葉延喜式等にあまたいへることあり

除　をいて（日本／紀）

大飯　おほいた（若狭国郡／名　和名）

大分　をほいた（豊後国郡／名　和名）

悔　くい（日本紀万葉くや／むくゆとかく）

人参　くまのい（和名又かのにけくさ。くまのいとハ熊膽をいふなり／此国にハ上薬として人参の功をくらべたとへて）名付たるにや

刃　やいは（やきはと同韻／にて通していふ）

熟艾　やいくさ（延喜式／艾本點）

丳　やいくし（俗作／串誤）（和名やき／くしなり）

揚津　やないつ（和名摂津国／河辺郡郷名）

山芋　やまついも（薯蕷なり。／俗云やまのいも）

烏牛　まい（和／名）

俎　まないた（魚板（マナイタ）／なり）

鞴　ふいかは（和名吹（キ）／革なり）

冷　（寒／同）こい（日本紀和名俗に／いふこごゆるなり）

展轉　こいまろひ　万葉又反の字をかきてこいとよめりこやろとつふしけるなり

漕代　こいしろ　和名伊勢国飯野郡郷名こぎしろを同韻にて通す

雀皷　えつさい　和名小鷹の名なり悦哉とかきまた此二字の音をもてよめるなり

愛知　あいち　和名尾張国郡名日本紀に六年魚市とかきてあゆちとありやいゆにかよへるなり

秋鹿　あいか　和名出雲国郡名

英多　あいた　和名美作国郡名

齶田　あいた　日本紀今の秋田なり

山榴　あいつゝし　和名に秋おほく

花はくつしあれハ秋躑躅（アイツヽジ）の義成歟。節用集にハすみかうちあきつゝしと註せり

秋沙　あいさ　万葉にハあきさとあるを常にかくいへり字ハあきさ仮字なり

頭子　さい　和名万葉にハさしとあり。りくハ乗の字乃音なり。才をも和語にさえといふに准して知へし

犀　さい　附奴角ハさいのはなつの

埼玉　さいたま　和名武蔵国郡名

拵揆　さいつち　和名

彈丸　さいとり　さしとりにて同韻に通せり

戯射　さいたて　和名

近曾　さいつころ　さきつころなり

○ （真名未考）さいなむ（仮名未考。常かくに任す）

三枝 さいくさ（和名抄駿河国大野郡并加賀国江沼郡郷名。これくさを同韻にて通す。さきハさいをひなり。日本）紀に福草とかけり。延喜式に朱草別名といへり。和名に葛の字を用て枝く並しれ草といへり

○ （真名未考）さいで（仮名も未考。古きへるに任す）

紀伊 きい（きいなれともいきとのとよむをあつかひ）とす。とないへる五十猛神よく八十木種（ヤソコダネ）を天下にまきほとこしたまへり。此神のましまする国なりたるに木国といふ。伊ハ紀の韻字なれハ音便にてそへたり。もと国郡等の名ハ字をえて二字に限て名つくへきよし元明天皇の御時勅ありしによりてなり。山城国紀伊郡も和名に岐とのミ注せり。されとこれも紀伊のごとく肆ハひきをもてそへたる字也

基肆 きい（肥前国郡名なり。和名に木伊と注）

砧 きぬいた（和名衣板なり。略してきぬいたといふ）

鞦 しりかい（和名にハしりかけとあり。俗にきといを通してかくいへりしなとなれときとけを通して尻繋（シリカケ）なるへし）

絓 しけいと（悪絲也）

櫪 しきいた（和名）

炒僙魚 ひほしのいを（火乾魚也）

透垣　すいかき（すいかいといふへからす。すきかきをふたつのきをはいに通するなり）

次田　すいた（筑前御笠郡郷名なり。つぎたを古語にすきといふ。大嘗會の主基（スキ）も此義なり。源氏物語なとにもしはしはあり。津の国の吹田も次田なるべきを続後撰集よりこなたの集の中及ひ今も吹田とかく。古語によくかよへる故。次と吹と似たれは。吹の字の音とこゑを得て次はかへりて誤なりと思ひて改めけるなるへし）

少納言　すないものまうし

右は中下のいおほくはさまかよへり。太刀をはいてらはひいてちをといふをまかよふといふを皆濁るへて知へし。そいとせいはやよかよへり。さいとりへしよかよへり。又錍屏なといふ音のいを皆はいるなり

ゐ　爲韋委威尉（音）居井（訓）等

猪　ゐ（猪名野等　ゐくし）

蝙蝫　ゐ（和名）

居　ゐ（うと通す。日本紀に急居つきう）

井　ゐ（岩井山井井筒井戸等准此）

藺　ゐ　　珂孚豆　ゐちこまめ（和名）

将　ゐる（ゐてゆくひきゐ るなしとゐるし）　[illegible]　ゐる（和名舟の後に著 てゆられをいふ。俗）

（云す ころ）　員辨　ゐなべ（和名伊勢 國郡名）

田舎　ゐなか（万葉 和名）　院（王眷切）　ゐむ（云院をゑよゑ んといふハ漢音）

（なり。ゐんハ 呉音なり）　赭魁　ゐのいくき（和名）

牛膝　ゐのくつち（和名。俗云 ゐのこつち）　豕　ゐのこ（和名）

織複　ゐのあし（和名。俗ゐのつ めといふおちち）

堰杙。ゐくひ（假名日本紀の應神天皇紀 の大鷦鷯尊の御うたにあり）

耒底　ゐさり（和名犂具附耒骨 ゐさりのえ）

膝行　ゐさる（古名未考。膝あるく云なり。足のたゝぬ かたゐりのをゐざりといふもこれなり）

臀　ゐざらひ（和名）　堰埭　ゐせき（和名）

守宮　ゐもり（假名未考。常にかくかゝり。和名にハ蝘蜓ハいもり なるに。彼下に云。本草云龍子一名ハ守宮（和名止 加介）蘇）

蝎注云常在屋壁故名守宮也とあつてゐもりの和名なし。然るにゐもりのしるしといふほに博物志の説と蘇敬が説とそ大きにかはれり。とかけハもし。ゐもりもいし。とかけの老たるがゐもりとなるにや。あまかへるの老たるがゐもりとなるとしふるけよし。さもありぬべきすぢとみえたるハ得がたき。名づくるよしハ壁なとをいふなれハ。ゐハ居守宮も井によくすめハ井なる也。井に居るをゐもりといひ。屋にすむをやもりといふを俗説なり。始にいへるにしくなし

乾　いぬゐ　（戌亥の両方をかけたれハなり）

中下のゐ

齗　はゐく　（和名云齒傷酢也）

行器　ほかゐ　（外居とも　未考）

鶏栖　とりゐ　（和名鳥居也）

宿直　とのゐ　（殿居なり　侍宿とも）

川合　かはゐ　（和名甲斐国八代郡并巨麻郡）

和名共に加波井と注す。他国にあるハかはひなるを今の井の字おほつかなし。国の人乃よこなまりつるに

乞索兒　乞兒（同）　かたゐ　（和名乞食者なり。癩人をも俗にいひ習へり。かたゐといふハかたはのかたにそへるにや。居て物をこふ人ハ傍居（カタ井）の義なり。又和名にはほかひびとゝいへり。壽の字を日本紀にはほかひとよめり。ほくといふにおなしく人を祝ふ也。乞丐の輩人のいへをとひて祝ひて物をもとむるを名付くる也）

桔槔　かなつるゐ　（汲索井也）

雞冠花 からあゐ（万葉韓藍とし） 高陽院 かやゐ

夜居僧 よゐのそう（結番宿 禁中僧）

地震 なゐ（武烈紀御製歌又地動も同しく點す） 澤瀉 なまゐ（和名俗よ田烏子とかき）てこれをたくわゐといふぞ此澤瀉なり。田烏子ハ下の烏芋のことなれハ文字も物したがひて誤まる也。但なまゐハなまくわゐの心也。なましくてくわゐハ烏芋なり。澤瀉ハ蕢てふおもたかハ和名の心これにあへざる也

髻髮 うなゐ（万葉 和名） 莞 おほゐ（万葉和名大藺なり日本紀よ莞子をかまと點せり訓のやう知らし）

大炊寮 おほゐつかさ（和名）

烏芋 くわゐ（和名俗よいれをろくわゐ）といふ烏芋ハ黒き芋也。かくすの芋のこと也。かくすうわかくすあふきしあれハなるべくくわゐハ黒丸藺（クワ井）也根ハ黒くしてまろく衆え語き藺に似られハなり丸の字をも古事記万葉よ只[illegible]の訓と同しくよめり

紅 くれなゐ（和名呉藍（クレノアヰ）なり。乃阿反奈なれバつめてかくいへり）

位 くらゐ（座居（クラ井）のことなり） 天雲 くもゐ（新撰 万葉）

野猪　くさゐなき（和名）　圓居　まとゐ（俗に車ざに居るといふなり）

参入　まゐる（万葉まゐいるとよめへきをいを略せり）

詣　まゐて（まうて同し。ゐとう通すまてともいへりまゐてハ参出の事）

二處　ふたとゐ（和名長門國厚狭郡ノ名）　木居　こゐ（鷹の雛子のるりを待て木ニ居るなり。）

眼皮　まなこゐ（遊仙窟又まならさ）

紫陽花　あぢさゐ（和名かくのことし万葉ニハ味狭藍とかきてつゐのことくあちさゐとよめり云狭も同し味ハほむる詞狭（サ）藍（井）ハさあゐといふへきをあを略していふたゝあゐなりあちさゐの花をまくれハかくなりくろきなり万葉ニ玉きぬのさゐ〱沈ことゝあるもなひく藍ニ入るゝなり）

藍　あゐ　附澱　あゐしろ　藎　あしゐ（又ハかきさな和名）

佐爲　さゐ（古事記山ゆりの古語）　○（地名未考）さゐさつま（新撰和名式并ほねき爪名未考）

潮佐爲　しほさゐ（万葉）

敷居　しきゐ（閾の字をしきみとよめとしきみといふへきを俗に訛てしきゐといひて字を居と）

さへ出え左傳に班荊をしえをしてさゐ
ますとよめるハ今の義にあらす

物理 もとろゐ（和名備前國磐梨郡ノ名）

基 もとゐ（未考得本居(モト井)の義なるへし）

用 もちゐ（此假名いまゝさ性なる所を）

ゆゑへす常にかやうにかゝり。是正字なるハはふくく附も
ちうといふへしゐといふ音の義なりもちゆとハいふへからす。

ゆゑい
とゐす

ゝ

ひ 附 これハ中下にあらて事使のいゐとまうす字を家は（ひふへほとかくよひ又ハ漏りてまうゐれをハもちす）

櫟 いちひ（古事記万葉和名。いちゐと云へうす）

入相 いりあひ（日の入ほとをいふ。晩鐘ハいりあひのかねを云いりあひといへり）

牽牛 いぬかひほし（和名ひこほしとも）

木蓮子 いたひ（万葉和名）

飯 いひ（いゐとかく誤れり）

三代實録延
喜式並用之

太宮 いぬのたまひ（和名太吐世）

楲 いひ（和名）

粒 いひぼ（日本紀又播磨國郡名揖保に）

肬目 いひぼ（和名粒(イヒ)に似たりまハいふ元俗）

いをといふ和名に又いをのめ俗にいをを
のめどもに魚目に似たる故なり

揖保　いひほ　　休留　いひとよ（和名）

赤蟻　いひあり（和名飯につく蟻はこまかにて又赤し）

白拂　はへらひ（和名蝿（ヘ）拂（ハラヒ）なり）　蔤　はちすのはひ（和名はふ）

まうりて
ゐつく

㕞　はつくろひ（和名）　　羽易　はかひ（万葉仮字）　羽咋　はくひ（和名能登国郡名）

蔓荊　はまはひ（浜（ハマ）延（ハヒ）なり和名）　灰　はひ（和名はいとかくへうす）

匍匐入　はひいり（ほ擬の字にあり出雲にはいりくちといへり）

延槻河　はひつきかは（古名仮名並万葉集中にあり）

杜仲　はひまゆみ（なり）　蔓（ハヒ）檀（マユミ）　新嘗　にはなひ（又にはのあひとも日本紀）

漿　におもひ（和名に又はつくりこほり俗におもゆといふそれ此おもひは水なり下に冷（サムキミモ）水といふ所にもみゆ）

へしおをすこしいれて水かちにて煮たれは煮水気又たての
水に似たれは似水（ニオモヒ）気常には汁字をこんつとよめるはこころにて濃（コ）み

の義なり和名には醸をこうりとて別に出せり

新　にひ（万葉和名にいとかくへからす）

甘遂　にひそ（又ハにはろ和名）

茵茹　にひまくさ（又ねあさえ和名）

庭妹　にひせ（和名備中賀夜郡ノ名）

乞索兒　ほかひゞと（和名又かたゐ）

小縣　ちひさかた（和名信濃國郡名）

小鮹魚　ちひさきたこ（又するめ和名）

褌　ちひさきもの（小物にてきくし清音に衣（ギ）物にて濁る音なるへし又すまし物。たる和名にみへしまりぐ日本紀にはたふさきとあり）

小　ちひさし（ちいさしと云へからす小縣等のし）

繡　ぬひもの（和名にはぬふもの常にはぬひといふ）

甥　をひ（和名をいと云へからす）

度會　わたらひ（和名伊勢國郡名）

嬥歌　かゞひ（万葉第七第九）

餐饋　かたしきのいひ（和名堅炊（カタカシキノ）飯の義なり）

参差　かたゝかひ

餉　かれいひ（かれひとも）

鞨　かれひつけ（馬具和名餉著義）

樏子 かれひけ（和名に破子 わりこなり）

王餘魚 かれえひ（俗云かれひ 和）名也今案かれえひハ韓鰈（カラエヒ）の義なるへし。らゑを切（カヘ）せハれとなれり かれひといふなり

蜻火 かけろひ（古事記に履中天皇御（ゴ）製に火をかくよませたまへり。其名ハ万葉に春のかくろふによかくかけりかくろふのもゆるさまに蜻蛉のとびかへるに似たれハなるへし。これもかけろひといふへきを火をほともえ（ば）かよりてかくろふといふなり）

橿日 かしひ（日本紀万葉にハ香椎とかゝれたるを和名にハかすひとあり。姓氏録に糟冰（カスヒ）とかゝれたり。）三代実録にハ香襲 これもかすひなり

貝 かひ（万葉和名かい しかくへりしは）

殻 から（和名虫之皮甲也 和訓のから貝に同）

匙 かひ（和名）

棱・かひ（日本紀棱具也和名抄曰ひ常にしひといふ物をかよ）なすなり池の樋の水をかよハすに用しられハ日訓なり かいしかへ弱きをかよハさうるをかよハすなと そへていふなれハトのひハ常いふに用しきなり

舳 かひろく（船不安也 和名）

雞頭樹 かひろてのき（和名）かへるてとおなし

肘 かひな（古事記日本紀 武尊御欲）

蠶 かひこ

卵 かひご（かひごハ殻（カヒ）子のこゝろ）

拵　かせひ　（延喜式かせとく）
けり
ゑ丸
杖ヶ下記の
るすと入西
よろひ纔れハ
自足のんなり
齢　よはひ
流星　よはひほし　（和名）

鎹　かすかひ　（和名假名樂よとくるハ今のか）
○（真名未考）　よろゝひ　（蜻蛉日記よみ）
鎧　よろひ　（日本紀よ一具）　のよろひと
白芷　よろひくさ　（又ハかさもちかな）
結婚　よばひ　（日本紀）　万葉
宵　よひ　（日本紀衣通姫歌　又古帳のこのよあり）

よさすらはゝちゝしあちきなの花のよりゝよあらて
しかなぐれしあちきなの花を思ひゝあきぬきれハ宵ゝよあひ
たまさかにふよよせゝりぱよりゝハ秋をはよしとよめるあり
同し郭公にハ宵にハ思ひを思ひゝしゝふあけぱもよいしかく
此なりぱよめとれ
かくへうつす

丹比　たちひ　（和名河内国郡名）
日本紀に虎杖（タヂトリノ）花
の古訓としへり
與　たかひ

假令　たとひ　（譬喩と訓）　のこと同し
多遅比花　たぢひのはな
互　たかひ
手洗（テアラヒ）の義なりすぶをちゝ手洗とゝかゝりて
あらひを豆阿（テ）ノ又ちちるあるよたかひといふ死父

手をたといひてあつかひを上略して名付られ

手巾　たのごひ　和名

魂　たましひ　（万葉十五たましひゐとも云へり）

反吐　たまひ　（日本紀嘔吐和名同）

衲　たひ　（和名俗云能不一云太比）

鯛　たひ　（和名たひと云へりすぐれなる魚な）

まうれたひらの略なるべしたひらとおもし芸帖にあつさきのゐよりたひのたびかさなるへとよめるもたひとかくをによたびかさなるへとうけたり

平　たひら　（たひらとも云へうすたひらは）

手（タ）枚（ヒラ）なり俗掌をてのひらといふ又物の平なるを如掌といふを思ふべし

平安城　たひら　（今の都の名日本後紀に藤原右大臣園人嵯峨天皇に奉りけるうたにけふの日）の池のほとりにほとゝぎすたひらは千代と鳴はきゝつや日本紀にはたひらけしとよめりそれもくといふをしせたるおなじ義なり

背向　そがひ　（万葉にそむかひの略なる背を）

○

真名未考　そこひ　（万葉十五あめつちのそこひのうらにあがごとくのさなりそこぬとも云へり底をそこ）といふはけ略なる畢の㓨も同義用しかるへし底によせてそこひに知らずといふところをやりて底をそこひといふところはろく從なり

鵄　とび　（日本紀和名俗にかたせとといふ）

るなり古事記にはそみとしるしたれども
よめり又翠鳥とかけり翡翠は此雌雄也

隂頽　そひ　和名

下ス頽ヲ也俗語ニ云曾比今の世そくか
くろによふられるらをいひて係の義

酸　そひ　（和名ニ云蒋魴切韻ニ云酸於鬪反酒ニ再ヲ）

傍　そひ　（日本紀にかそへていやをこ万葉）
よかをろひの見へのくちなゑいそふるのなひのたら系とよ
めり川によそへる所を川傍とこまそへる所をいひてほ
ろのそひと
衛によめり

使　つかひ　（つかふといふ用の言を体にいひな）
するな
り

客作兒　つくのひと

和名人のつかふるを作僕を
ゑくく奴従人なるかれの名なり

艇　つきしひ　（以角鯛物也和名）

白英　つくしのいひ　（又作て和名）

遂　ついに　（古事記并万葉第二十）

婦負　ねひ　（和名越中國郡名なり万葉にはめひとあり字によれはめおひを略せるをねひといふは同韻）

慦　なましひ　（のことなか万葉十一十二強）
また通せる
なるらし
まは古事紀に尓猪取依其沸琴而那摩那摩迩控坐とある
はあふくの言なりぶまきんたちちすま女房なとはましき
あるこ物の趣をましてなましきそなう隔るとまうろ人の
ころくもひさしたるはものねにおとれはそれをたとくて

いふをば萬葉に奈麻強しとかける
も假字なかりしもあるにや

圉人　むまかひ　馬飼（ムマカヒ）なり　和名

笊籬　むぎすくひ　麥索䈽也　和名

鶯　うぐひす　萬葉和名古今物名に心から花のしつくに
そほちつゝうくひずとのみ鳥のなくらんと
かくよめりひの字用へし愛作巣（ウクヒス）のこゝろに名付たる歟。
鳥の中に鶯ハ殊にうるはしき巣をくふ鳥といへり

祈狩　うけひかり　日本紀に事の吉凶を獲（エ）物によりて知
らんためにする獵をいふ。俗語物語に
つみもなき人をうらみいふによりてうけふといふを
はじめてのろふ事なりと思へるハあやまりなり。神代紀に
ハ誓約をうけひといへり。神武紀にも祈の字をよめり。只なる
にいのるとちかふとをうらなふといひて其中に俗語物語にあ
るハのろふかたにより
なかしくるへし

石龍芻　うしのひたひ　和名

初　うひ　古今物名に薔薇（サウ）をさうひにかけてうひによそへける
と見えくによまる。ういうゐると云へりけり。日本
紀に初位をうひかうふりと訓せり。又本孫をうひまこなとと
訓せり。うふとうひとハ音通せり。清濁ハかはれとこれハ俗
例にもあれハうとハいひ
とかゝるへし

戴星馬　うひたひのむま　和名

碓氷　うすひ　和名上野國郡名

鬠　ねさうひ　和名

大辮　おほいおほとひ　和名

頷　おとがひ

大忍　おほさひ　和名土佐國香美郡に名あり　名假名共によんれうし

苜蓿　おほひ　和名

烏魚　くろたひ　和名黒鯛なり

鞍帊　くらおほひ　和名

鵠　くゞひ　和名くゝひ又かく　へりうすゑふ　どし　いふ．

餻　くさもちひ　和名云　考聲

切韻云餻（古勞反字亦作　餹久佐毛知比）蒸米屑為之　文德實錄云嘉祥三年ノ詔言曰今玆三日不可造餻以無母子也　今按考聲切韻の意ハ米の粉をもしてむす餅なれハくさもちひとよむへき證に文德實錄をひかれたり然れとも實錄にては毛知比とのみよみてしるすをかゝず三日ハ草餅を製すれハ次下に母子なきゆへとことわるまてよのもちひハくさもちひと知らるゝなりこれによりて餻をくさもちひとさためしこゝろハ深く思はれ侍りけるにやとおほし嘉祥三年の詔言ハ仁明天皇三月に崩したまひ御母檀林皇后おなし五月にかくれたまへりをもおもへり母子ハなしことまされりとよに出すへし

杙　くひ　和名撅　橛並用

弶　くひち　取獸械也　和名

蟵蠑　くひ　在牛馬皮中蟲也　和名

水雞　くひな　日本紀和名　よいそく　雀

禹錫食経ニ云鼉鳥（和名久比奈漢語抄云水雞）貌似ニ水雞ニ能食ニ鼉ヲ故ニ以テ名ツク
あれハ漢語抄も日本紀と同しく水雞をくひなとせり食経に
よれハ別の　鸊鷉　くびおほひ　（和名）
鳥の名なり
抗　くひぜ　（和名くひせ字　古事記にハくひ）　弥生　やよひ　（三月の名な　りすなはち）
三月をかきてもやよひとよめり此月草木いよ〳〵生ひ茂
まハいやおひといふへきをいを略しおとよとを同韻にて通
してかくは　胡簶　やなぐひ　（和名矢を　杙のごとく）
いるなり
させハ矢杙のさまに名付るも
のとなし通す渡るのなるし　峡　やまのかひ　（万葉和名　あしひき）
通して山の　病　やまひ　（斎宮の忌詞に　病をやすみ）
あひなり
といふやすむハ止住（ヤスミ）のこゝろ也佗ハ居るか義病に依て休すへきを
を止て居るかれにいふ也然るをハやまひをもやむとしいふて止（ヤム）と字
字の訓とも同　巴戟天　やまひくさ　（和名）
じなるへし
舞　まひ　（立まふそれハまふ　を舞といふなり）　幣　まひ　（日本紀万葉にま　いなひのこゝろなり）
苦参　まひらくさ　（くらゝと　も和名）　賂　まひなひ
雲冠　まひのかしら　（和名）　笥飯海　けひのうみ　（越前）

敦賀郡日
本紀万葉
見文
選

蓁葢　ふちのしなひ　葢字

笮　ふるひ　和名根ふを拼（まいはなすなり）

艤　ふなよそひ　（和名舟装云／のよそひなり）

若船　ふなやかひ　和名

吹飯濱　ふけひのはま　万葉吹飯浦和泉丹後紀伊三國にあり宗于清正のよめる紀伊なりふけゐとも云へしゝすこしなまりいひならはすとふけゐいひるすゑとなり

無事云　ことなしひ

特牛　ことひ　和名万（万葉にも事）負ふにかゝる牛大きにしてちからつよく物を負ふによてとおひといふを略せる名なり又特の字殊と同訓なれハ他の牛より異なる故なれハ拼しいふ負とハ出たれとも殊負（コトオヒ）のことなれ

木舞　俗　こまひ

有意　こゝろしらひ　日本紀

鯉　こひ　和名味のよくて人の意ひきたふ故の名なれ。古歌に恋によせておほくよめり。こひといふこゝろある事へうす

戀　こひ

腨　こひ　（和名腓腸也俗によ／ちふくすねとも云）そこひすねの所なり肥腨（コムラ）にやしと実ゆれとこゝひぶるいと実ゆるをいつしかくおを知りてあやまれるなりそるをしりて

とゝゆりといへるも我住国にくまきうつといふ村ありてそこにあ
のらに池のうく池あり村のものとも池をさらへて火をともしも
すなはちとしとりや村の名それそれ充させて其一村には男女を
いそす大かたかひあしまて侍りとて取りけるをそれのまうきま
にあかるにやかけるに日
記をよませていへり
泥　こひぢ（和名粉土（コヒヂ）の心なるへしぢひ）
ちかころしといふ俗にとろといふ和名にとろのよしえしす故る
に類聚国史に山城の登勤（トロ）池を或ハ泥潭（トロ）池ともかけり是ハ
昔よりの
ことはなり　鐔　はひ
交　あはひ　或　あるいは

價　あたひ（あたるあたふあたへ皆一類也）　麻柱　あなゝひ（和名造作具竹木抛）
流は　穴奈比　あなゝひ（続日本紀る）
しるゑ
の中の宣命に見えたるをあつる字は仮名なり
此くるきあり麻柱もこれよりなつくるなれ
如　あまなひに（古事記にあまなひ日本紀睦こゝし）
（の古語なりみなもろともといへり）
葵　あふひ（日に随ひて傾く草なれは仰日（アフヒ）の心にて名）
つくるなれ又此葵ハ和名にて園菜に載て延喜
式に天子の供御にも奉るよし見えたり崔禹錫食經に蕗
をほして葉似葵而圓廣とあれハ賀茂祭に用る葵にはあ

らす今の世ハ失たるにや知人なしかゝるあやまりハ蜀葵にてみ
られたりすなはち李時珍か本草綱目かけるにし今ハ只まのこ
とくしてくゝそ
ぬよしなり

朝夷　あさひな　（和名安房国郡名）

清盲　あきじひ　（和名）

脚帯　あゆひ　（日本紀に万葉には足結）
とかけりすなはちあし
ゆひの義に名付たり

掾撃　あひ　（俗にかけあひといふ二人てある）
かなしよりみゝをあはせてあ
ひうてばあひとはいふめれ

間　あひだ

相寝濱　（未考）　あひねのはま　（古事紀に允恭天皇の皇女輕大郎（イラツメ）女の御うたに）
夜まのあひのまにとよみたまへり夜まのしかわ
くあひなれはをかくつけたまへり俗縁にあり

姶羅　あひら　（和名大隅国郡名）

相生　あひおひ　（あひをひとか）
くへりすあひおひの小塩乃山の小松原なりとよみ年
の月ほとゝるを世にあひれひとふし小松なとのたけをくら
へてなりひせしかは
よそへていへるなれ

齶脣　あひくち　（和名）

壽　さかほかひ　（日本紀寿の字をほくとよむハいきふする／あれハ酒寿（サカホカヒ）にて盃をえていはふ）
まなきことふきといふしほとふと通されハ言祝（コトホキ）なり人の
侍るにも年いくつとかふ可よ壽の字あかめてしとよ

むハ誤なり日本紀に天子の遊戯をまつろせろふにハ
ゑいのちと點をわこをおハいのちとよむへし

境 さかひ　（日本紀并万葉に境部といふ姓を坂合部とも／かゝらぷ山のたうげハさへるさかなるの坂乃あ）
へる所にて國しゝにてさかへバさか
あひを略してさかひといふなり

櫂 さうひ　（和名さうへさうふといふ／云あやまれるを俗にいふ也）

冷水 さむきみもひ　（日本紀第七景行紀さむきハつめ／しきなりといハ飲むれの名とハ）
帝に奉る水なれハ御水なり催馬樂にみもひもさむしと
いへるこれに同し萬葉集第十六巻におりひくみにまゐるかと

いへるも同し狭下のゑ
水目の下にいふへし
て御に
るつく

侍 さふらひ　（さふらふと／いふゑをも）

雑賀 さひかの　（紀伊國なり／あわ万葉）
まさひかの淵をよめるうたを六帖にさいかの淵とかゝるハ写す
りのく誤なるを万葉をもし考へすして紀の國にさひかの
あわといふハ誤をう
りてまとへるなり

鎛 さひつゑ　（和／名）　（日本紀又日本紀に鋤ハ訓の名／ちりとの鋤字の注に鋤属也）

鋤持神 さひもちのかみ
とあれど鋤字をさひとよめるも鎛のさき
にて刃のそれが形に似たるに名付るなり

腒腊　きたひ　和名

近衛府　ゆけひのつかさ
兵衛府衛門府同じ衛府おの〳〵左右あれハ六衛府といふ
此靫を負ふ者なれハ靫負（ユキオヒ）といふへきをゆけひとあるは
けをきを通りしてたをと略せり又幾於切ハこなれバつ
めてゆこひといふへきをこゝろを字ところあしかれど音文に通
してゆけひといふ也
靫ハ俗にいふうつほなり
やとひてう
ろちいへり

姪　めひ　和名

○　真名未考　ゆひ　田うるにまよ人を

盲　めしひ　和名

漉水嚢　みつふるひ　和名
僧具也俗にハみ
つこしといふ
又志ぬとかくハ誤なり兼輔卿家集にもナ千を隠題によ
まゐらる中に丙（とゝ）を志ひのえハと隠されたる古事記了
適郊天皇の御このよハ志
ひことよみなたまへり

秕　志ひなせ　和名

沈湎　ゑひさまぶる　日本紀
そくろ
ましし

推　志ひ　日本紀古事記　万葉和名一同なり

瘤　志ひね　和名

强　志ひて　万葉志ゐてとかくへうす

副車　ひとたまひ　和名

太白神　ひとひめくり　和名

額　ひたひ　和名額ハ佛の三十二相にも。額廣平正といへる廣平の略なりひたひとかくへうす。又ぬかとはいふぬとむと同韻なれど。むかにて向ひの略なり指向ひさくせえんゆる所なればなり和名に板歯をむかばとあるハ世にいふむか歯なりこれに准へて知べし　蔽髪　ひたひ（女具和名）

細辛　ひきのひたひぐさ（又みゝのねぐさ和名　蟇の額に似たるよし）

蛾　ひゝる（和名）　○　（真名未考）　ひゝなあそび

疼　ひゝらく（和名日本紀の神武天皇の御歌にうゑしはじかみくちひゞくとよませた）まへるハはじかみをくへばからきに依て口の疼らくをよみあはせたまへば。ひゝらくしきハ下のひの字濁りていひて習くことにや。今手にあかゞりて手足乃皮のすこしさくるを胼といひ。器物のわれめの出来るをひゞきといひ。糸よりてかねの未なしゝをおして手にこゝろみるをひゝくといふごとくひゝらくといふてもかよふへし

黄芩　ひゝらぎ（和名に杠谷樹ならし巴戟天ならしかさねて訓同し葉のかどありて人を刺せば疼（ヒラキ）木）のこゝろ也杠谷樹ハ續日本紀にもみえたり本を注ふ拠あれハいへり

鬟　もとゆひ（和名髪を束ねて）

餅　もちひ（和名もちいひの略なり）

もちゐしと云へるは月をもちつきといふもみえたりもと
通られはもちつきたる故は俗に満なる物なれはもちといふ
義なり又勝負をあらそふするにかちまけぬを持といふは
物の中をえらぬ義なれはそのやうにうちかけの中なれは持
月といふもそれに似たれは持飯といふも黏稿をもちといひ
羊躑躅をもちつゝしといふも持て放ちぬ言合をもて思
ふへ
し

癲狂　ものぐるひ　和名
後紀のむやりきるなと
いふおもれるもしおもし

甕　もたひ　和名

舫　もやひ　舟を並へあ
はさるなり

燼　もえくひ　和名燃杭なり

盌　もひ　日本紀万葉和名又日本紀和名まりといふは
盌を飲れ器やしとはしるせるは和訓同しきは
この盌の
しし

主水司　もひとりのつかさ
もひハれとハつかさとなる
うき
りみくむをもいふへし

住　すまひ　万葉すむ　同し

捔撲　すまひ　遊仙窟に捔の字を
すまふと読をわらはたなふされしとすまふなよすまひと
いふ元色よすまふといふは儲なりすまふといふ時はる
ふまふといふこしく男なり又相撲を業とするものをす
まひとりといふそれを宇治拾遺にはすまひとのこといふ

今案弁色立成集和名に白歛

草ハましふかくさしあかたま

白歛草　すまひくさ

本抄にすまひくさといふありまことふかくさまてうつ

いくなしのすまひにありところるてさて別名をすまひ

なのしと

いつれ

りてこゝにくるとの哥よ

かなれハ吸毒といふにや

忍冬　すひかつら

和名苷

さけあ

和字正濫鈔巻二終